全柔連発第 26-0069 号
令和８年　４月１０日

都道府県柔道連盟（協会）会長・安全指導員各位

公益財団法人　全日本柔道連盟
重大事故総合対策委員会
委員長　射手矢　岬
（公印省略）

年度初めにおける重大事故防止の徹底について

平素より当連盟事業にご理解ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

新年度を迎え、新たに柔道を始めた初心者も加わり、地域の大会や他校との合同練習、練習試合等に向けて日々の練習も活発に行われる時期に入っています。

毎年、この時期に初心者に関係する重大事故が発生しています。特に、コロナ禍以降は、頭部・頚部の重大事故が再び増加傾向にあります。一昨年度は、成人女性の初心者が急性硬膜下血腫により死亡に至った重大事故が発生しました。昨年度は、脳しんとうの事故報告も増加傾向であり、特に裏投げによる事故が５件でした。これらの状況から判断して、重大事故の件数が再び増加することが強く危惧されます。さらに、近年の重大事故の分析では、初心者とともに、中高年の柔道経験者の事故報告も続いています。

こうした現状を踏まえ、改めて以下の事故防止の留意事項を参考に、重大事故ゼロに向けて一層のご協力をお願い申し上げます。

重大事故防止の留意点

○コロナ禍以降、**子どもに限らず、運動離れの傾向が進んでいる。**従前に比べて、筋力を含めた基礎体力や受け身技能等が十分に備わっていないことから、**頭部・頚部の重大事故が発生する危険性が高まっている。**

○**初心者の試合に向けた練習において重大事故が発生**したり、**中高年の経験者が十分な練習を積まずに試合に出場して重大事故が発生**したりしている。基礎体力や受け身の技能が十分に備わっているか、また十分な練習ができているかを把握して、練習や試合を計画的に実施する。**初心者の練習や試合においては、特段の配慮を徹底**する。

初心者の重大事故防止の徹底事項

○初心者には、少なくとも**柔道を学び始めてから３カ月程度、高い位置からの投げ込みを行わせない。**
特にこの時期は、**初心者に大外刈りの投げ込みを受けさせない。**

○全柔連に登録していない新入生や初心者が重大事故に遭い、見舞金が支払われない事例が散見される。そのため、登録は早めに済ませる。

○**初心者には、大外刈りの高い位置からの投げ込み（受の両脚が宙に浮くような投げ込み）、および投げ技の乱取りは、少なくとも柔道を学び始めてから５カ月程度経過後に実施する。**

○**試合や練習試合等への参加は、少なくとも柔道を学び始めてから６カ月経過後とすることを徹底する。**

○**試合優先の練習に陥らない**よう、初心者一人一人の体力や運動能力、受け身や技の習熟度を踏まえた練習を行うとともに、**試合への参加時期についても個々の習熟度に応じて個別に判断すること**を徹底する（昨年度、柔道歴 5～7 カ月の初心者において急性硬膜下血腫の事故が１件発生した）。